

氏名	田坂 翔太	部署	作業療法学科	職名	助教
研究分野	子どもの時間処理調整能力に関する研究 発達期作業療法に関する研究				
学位	学士（作業療法学） / 修士（リハビリテーション学）				
学歴	2022年 埼玉県立大学大学院 保健医療福祉学研究科 博士前期課程 リハビリテーション学専修 修了				
経歴	2023年 埼玉県立大学保健医療福祉学部 作業療法学科 助教				
所属学会（役職）	日本作業療法士協会, 埼玉県作業療法士会（理事）, 日本感覚統合学会, 作業療法研究学会				

【2024年度実績】

1. 研究業績							
(1) 著作(著書及びその他の著作物)							
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数		著者、編者名	発行等年月
1	該当なし						
(2) 論文							
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ	著者、編者名	発表等年月
1	Effectiveness of Attentional Bias Modification Combined With Cognitive Behavioral Therapy in Reducing Relapse Risk and Cravings in Male Patients With Alcohol Use Disorder: A Quasi - Randomized Controlled Trial	共著	あり	○	Neuropsychopharmacology Reports, 45(1), e70002	Yoshifumi Amano, Kohei Koizumi, Hirokazu Takizawa, <u>Shota Tasaka</u> , Toyohiro Hamaguchi	2025/3
(3) 学会発表							
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市		発表者(発表者は○印)		発表等年月
1	該当なし						
(4) その他							
	名称	単・共	発表場所等		発表者(発表者は○印)		発表等年月
1	該当なし						
2. 競争的資金等の研究							
	競争的資金等の名称	研究名			研究代表者・研究分担者の別	研究期間	
1	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)	子どもの健やかな発達を見守るための新しい時間評価ツールの開発			研究代表者	2024/4~2027/3	
3. 教育業績							
(1) 講義							
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要(教育内容・方法等において工夫した点)			
1	作業療法運動学		2	股関節、膝関節、足関節および足部の運動について、筋・靱帯・関節の構造的特徴を踏まえて運動学的に講義した。また、作業療法士国家試験の過去問題を取り上げ、正答に至るまでの思考過程を重視した演習を取り入れることで、理解の定着と実践力の向上を図った。			
2	地域作業療法学		2	児童発達支援や特別支援教育における作業療法士の役割と、子どもや家族を支える制度について解説した。子どもの特性・環境・生活のバランスに注目し、実践とつなげて学べるよう工夫した。			
3	母性看護学総論		1	子どもを対象とした作業療法の視点から、脳性麻痺、知的能力障害、自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症などの疾患特性を解説した。保護者の視点で考えるワークや事例提示を通じて、子育てと障害理解を結びつけ、支援のあり方を多角的に考えられるよう工夫した。			
4	ヒューマンケア論		1 (2開講)	援の枠組み(本人支援・環境支援・発達支援・生活支援・遅滞モデル・欠損モデル)について解説した。また、ICFの視点で支援を整理し、臨床経験に基づく事例を用いて、作業療法士の具体的なかわりについて説明した。			

(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	発達期作業療法学演習		15	子どもの発達と作業療法の基本的理解を深めることを目的に、講義と演習を組み合わせで指導した。摂食・嚥下実技では、食べる・飲み込む動きの発達的な仕組みを体感的に学べるよう構成した。感覚統合遊具実技では、遊具体験を通じて感覚の違いや遊びによる支援の考え方が理解できるよう工夫した。
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	基礎作業学実習	○	8	陶芸や七宝焼などの作業活動を体験し、道具や手順の理解と基本技法の習得ができるよう指導した。作業日誌やレポートを通じて、活動分析や作業の意味、心身への影響についての理解が深まるよう工夫した。
2	臨床作業療法技能実習		6	臨床場面を想定し、深部腱反射の確認方法について指導した。反射の見方や注意点を実技で示しながら、問題点の整理や結果の読み取り、今後の方針の検討につなげられるよう工夫した。
3	発達期作業療法学実習		8	保育所での見学や子ども・保護者への聞き取りを通して、子どもの発達や関わり方を実践的に学べるよう指導した。観察やロールプレイを取り入れ、支援の伝え方や考え方が身につくよう工夫した。外部講師による講義も取り入れ、臨床現場とのつながりを意識できるようにした。
4	発達期作業療法学特講		8	発達期領域における評価と臨床思考を深めることを目的に、幼児への検査実施や報告書作成を通じて、作業療法士としての視点を養えるよう指導した。特に、日本版ミラー幼児発達スクリーニング検査（JMAP）の体験と報告書作成、臨床映像の考察を通じて、子どもへの支援に必要な判断力を高められるよう工夫した。
5	臨地体験実習（精神機能）		2024/8/26～9/13（うち15日）	学外実習中の学生に対して施設中間訪問を実施し、課題の進捗状況や課題内容について評価・助言を行った。
6	臨地体験実習（高齢期・発達期）		2025/2/17～3/9（うち10日）	主に発達期実習施設を担当した。実習前には、基礎情報の整理から他部門の情報収集、作業療法評価、介入の流れに沿って検討する事前の事例検討会を実施し、実習で活用できるように指導した。実習は10日間で行い、実習中は発達期の施設指導者と連携を図りながら、学生の学びを支援した。
7	臨地総合実習（身体機能）		2024/4～7	学外実習中の学生に対して施設中間訪問を実施し、課題の進捗状況や課題内容について評価・助言を行った。
8	臨地総合実習（精神機能）		2024/4～7	学外実習中の学生に対して施設中間訪問を実施し、課題の進捗状況やレジュメ内容について評価・助言を行った。
9	IPW実習		2024/8/27 - 30	学生とのディスカッションを通じて、支援内容を多角的に検討できるよう助言した。チーム形成や相互理解のプロセスを意識しながら学べるよう指導した。
(4) 論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文	3年次生 2024.6-2025.3	主指導 8名	副指導 名
(5) その他				
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	2年次生 担任業務	2024/4 - 2025/3	2年次生全員と個別に面談を行い、実習に向けた準備や科目履修に関する相談に対応した。学生の状況に応じて必要な支援を行い、学修への取り組みが円滑に進むよう努めた。	

4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	JDDnet VR体験型プログラム 講師 7回	日本発達障害ネットワーク	発達障害-VR体験前後の基礎的知識（講師）	2024/9 2024/11 2024/12 2025/1
2	発達領域を専門としている作業療法士のための研修会(セラピスト養成講座)	埼玉県作業療法士会	発達障害児に対して評価と支援を実践（演習講師）	2025/3
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称		任期
1	日本作業療法士協会	制度対策部 保健福祉課（部員）		2014/6 -
2	埼玉県作業療法士会	子ども支援委員会 委員長（理事）		2017/4 -
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容		年月
1	該当なし			
(4) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	該当なし			
5. 学内運営				
	項目	内容		期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	共同実験管理部会 部員		2024/4~
2	全学的委員会及びセンター業務等	リアル体験教室「3Dプリンタを使って、困っている人を助ける 作業療法士になりたい」		2024/7
3	全学的委員会及びセンター業務等	オープンカレッジ「知的障がい者サッカー体験会&体力測定会」		2024/10
4	全学的委員会及びセンター業務等	武蔵越生高校 探求授業にて3Dプリンタ講義補助 2回		2025/2
5	全学的委員会及びセンター業務等	オープンカレッジ現場で使える3Dプリンタの活用法(専門職向け)		2025/3
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）				
	受賞名	主催		受賞年月
1	該当なし			
7. 特許の取得				
	特許名	特許番号		登録年月
1	該当なし			
8. 特記事項				
1	該当なし			